

平成24年度資源評価票(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成24年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 サメガレイ

学名 *Clidoderma asperrimum*

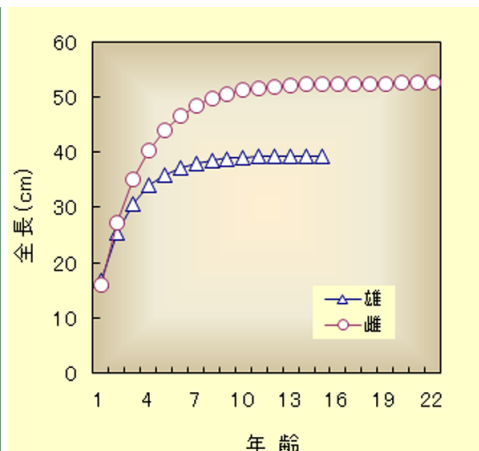
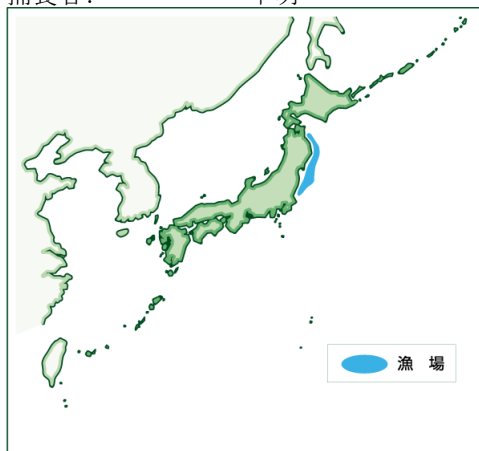
系群名 太平洋北部

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特性

寿命: 雄15歳、雌22歳
成熟開始年齢: 雄2歳、雌3歳
産卵期・産卵場: 1～2月、水深600～900mの深海域
索餌期・索餌場: 周年
食性: クモヒトデ類
捕食者: 不明

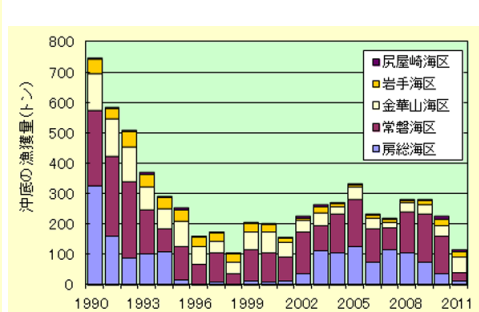
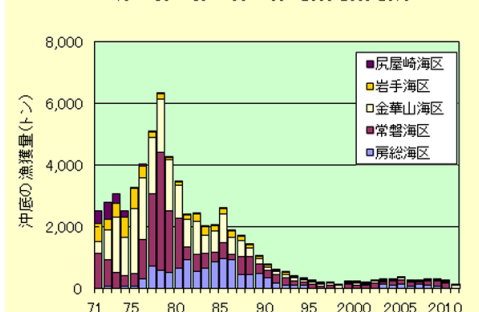
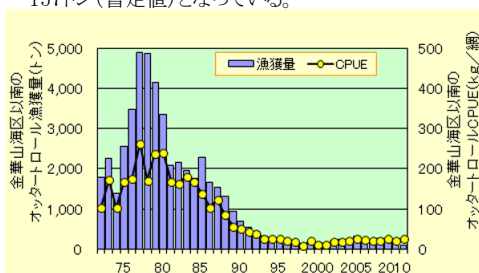


漁業の特徴

太平洋北部では、サメガレイは主に沖合底びき網漁業(沖底)により漁獲されており、他の漁業種類による漁獲量は極めて少ない。沖底の海区別漁獲量をみると、金華山・常磐・房総海区(宮城～茨城県沖合)での漁獲が大部分を占めている。また、宮城県では、サメガレイの漁獲は2月前後の産卵期に集中しており、産卵親魚に対する漁獲圧が高いと考えられている。

漁獲の動向

沖底によるサメガレイの漁獲量は、1978年の6,329トン进行ピークに減少を続け、1998年には最低水準の108トンを記録した。その後、やや増加し、2006～2010年は200トン台で推移している。2011年には、東日本大震災の影響で漁獲量は半減し、118トン(暫定値)となった。2011年の沖底以外の漁獲量は39トンであり、全漁業種類合計の漁獲量は157トン(暫定値)となっている。

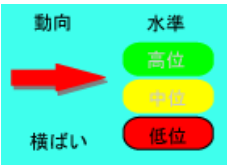
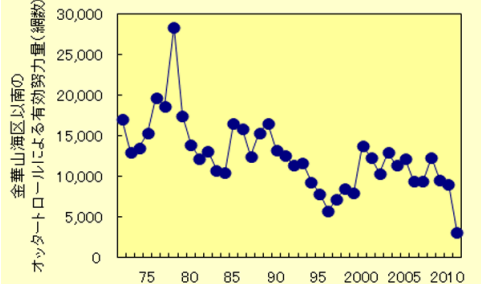


資源評価法

トロール調査による採集個体数は少なく、調査によって十分な精度の資源量推定値を得ることは困難である。そのため、漁獲量に加え、沖底の主要な漁場である金華山海区以南(金華山・常磐・房総海区)のCPUEの推移により資源評価を行った。

資源状態

沖底によるサメガレイのCPUEは低い水準で推移しており、資源状態は低位水準にあると判断される。過去5年のCPUEは横ばい傾向にあり、資源動向は横ばい傾向と考えられる。



管理方策

産卵期に集中的に漁獲されることから、産卵親魚を保護して資源量を増加させる必要がある。そこで、親魚量の確保を資源管理目標とした。平成24年度ABC算定規則が改正され、ABCは $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ 、 $ABC_{target} = ABC_{limit} \cdot \alpha$ で計算した。 γ_1 は、 $\gamma_1 = 1 + k(b/l)$ で計算をし、 k は係数(標準値の1.0)、 b と l はCPUEの傾きと平均値(直近3年間)である。なお、 Ct には過去3年の平均値Cave(2008～2010年)を用いた。

	2013年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABC _{limit}	170トン	$0.6 \cdot Cave_{3-yr} \cdot 1.00$	—	—
ABC _{target}	140トン	$0.8 \cdot 0.6 \cdot Cave_{3-yr} \cdot 1.00$	—	—

- Caveは2008～2010年の平均
- ABCは10トン未満を四捨五入した値

資源評価のまとめ

- 資源は低位水準にある
- 近年の資源動向は横ばいである
- 漁獲が産卵親魚に集中している

管理方策のまとめ

- 産卵親魚の確保が必要
- サメガレイが産卵のために集群している場所での操業自粛が必要
- 2011年には、2008年級群を中心とした小型魚が漁場に参加し、小型魚の漁獲量が増加している
- 2008年級群の参加量が多いと考えられるため、小型魚のうちに取り尽くさないようにすべきである

執筆者:服部 努・伊藤正木・成松庸二・稲川 亮

資源評価は毎年更新されます。